自動車・同部品・タイヤ

１．評価対象企業（19 社）

トヨタ紡織、横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、ＮＯＫ、アイシン精機、マツダ、本田技研工業、スズキ、ＳＵＢＡＲＵ、ヤマハ発動機、豊田合成

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	5	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	8	28
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	5	10
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	4	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	19
計		25	100

（注）評価項目の内容および配点は 69 頁参照

(2)　評価実施アナリストは 30 名（22 社）である。（70 頁参照）

３．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」（68 頁）参照）

①　本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**、**説明会等**、**自主的情報開示**において、項目の新設、削除、内容変更、配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.0 点（昨年度 69.9 点）、総合評価点の標準偏差は 6.6 点（昨年度 6.8 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、自動車メーカー（10 社：日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機）72.7 点（昨年度 73.1 点）、タイヤメーカー（3 社：横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業）67.0 点（昨年度 67.3 点）、自動車部品メーカー（6 社：トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、NOK、アイシン精機、豊田合成）66.9 点（昨年度 65.8 点）となった。いずれの業態とも、昨年度とほぼ同水準となり、自動車メーカーが他の業態を上回ることに変わりはなかった。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（昨年度 72%）、**説明会等**が 72%（昨年度 71%）、**フェア･ディスクロージャー**が 87%（昨年度 84%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が 63%（昨年度 65%）、**自主的情報開示**が 65%（昨年度 65%）となり、昨年度とほぼ同水準となった。なお、**コーポレート･ガバナンス関連**および**自主的情報開示**が、他の分野に比べ低水準に留まった。

④　評価項目について見ると、**フェア･ディスクロージャー**（(b)(c)(d)(e)）および**説明会等**（(a)(f)(g)）の分野の 7 項目が平均得点率で 80%以上となった。

(a) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか」（平均得点率 95%）（得点率：100%18 社）
(b) 「業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか」（平均得点率 94%）（得点率：100%3 社・90%台 14 社）
(c) 「ホーム・ページに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていますか」（平均得点率 92%）（得点率：100%8 社・90%9 社・80%1 社）
(d) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 92%）（得点率：100%1 社・90%台 16 社・85%2 社）
(e) 「ホーム・ページや説明会資料等の英語対応がなされていますか」（平均得点率 87%）（得点率：100%14 社）
(f) 「連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか」（平均得点率 83%）（得点率：90%4 社・80%台 12 社）
(g) 「為替および原材料の影響について、分析に有用な形で分かりやすく、記載もしくは説明されていますか」（平均得点率 80%）（得点率：90%5 社・80%台 8 社）

⑤ 一方、次の評価項目は、多くの企業で低い得点率に留まっている。

(h) 「連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか」（平均得点率 48%）（得点率：35%4 社・40%台 10 社）
(i) 「資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株）に関し十分な説明がされていますか。」（平均得点率 53%）（得点率：25%1 社・38%2 社・45%3 社・50%台 6 社）
(j) 「工場見学会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。」（平均得点率 55%）（得点率：20%1 社・30%台 3 社・40%台 3 社・50%台 4 社）

⑥ なお、本年度新設した下記 2 項目については、次のとおりとなった。

(k) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率 66%）（得点率：50%台 1 社・60%台 14 社・70%台 4 社）
(l) 「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 74%）（得点率：70%台 16 社・80%台 3 社）

(2) 上位３企業の評価概要

第 1 位　ＳＵＢＡＲＵ（ディスクロージャー優良企業〔5 回連続 5 回目〕、総合評価点 79.0 点〔昨年度比－7.2 点〕）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（得点率〈以下省略〉84%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 2 位（73%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 3 位（98%）、**自主的情報開示**が第 5 位（73%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 5 位（75%）となった。
② **経営陣の IR 姿勢等**においては、CFO ミーティングの定期的開催など、経営陣とのコミュニケーションの場が十分提供されている。IR 部門では、十分かつ正確な情報の集積、アクセスの容易性、同部門以外へのアレンジ機能が評価され、広報イベントでの共催を含め IR 機会を積極的に増やそうとしているとの声があった。なお、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 5 位、「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第 7 位となった。
③ **説明会等**においては、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるよう十分説明されていることが評価された。また、説明資料等において、連結の計画ベースの利益増減要因の解説が詳細で丁寧に記載されていることも評価された。さらに、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「連結中間期の計画ベースの利益増減要因は実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」に関しては、第 2 位以下に大差をつけた。加えて、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも高く評価された。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢を始め、ホーム・ページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供、説明会のリプレイなどが高く評価された。なお、一部の決算説明会資料がホーム・ページに掲載されていないとの声があった。

⑤　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に十分説明されていることが評価された。

⑥　**自主的情報開示**においては、ホーム・ページ、TDnet 等で有用な情報がタイムリーかつ積極的に開示されていることや、E-mail を利用して公開情報の提供を適切に行っていることが評価された。一方、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「工場見学、説明会等の実施」に関しては第９位であった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第２位　三菱自動車工業（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 78.5 点〔昨年度比＋9.9 点〕、昨年度第 12 位）

①　同社は、**説明会等**（79%）、**自主的情報開示**（78%）が第２位、**経営陣の IR 姿勢等**（76%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（72%）が第４位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第７位（96%）となった。昨年度に比べ、**フェア･ディスクロージャー**を除く４分野の得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇（ともに第１位）につながった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、CFO ミーティングの定期的開催など、経営陣とのコミュニケーションの場が提供されている。IR 部門では、十分かつ正確な情報の集積、アクセスの容易性、IR 部門以外へのアレンジ機能に加えて、アナリストが要望する情報の提供、担当者との有益なディスカッション、IR 改善の努力が見られることも評価された。なお、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」が第４位、「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第 14 位となった。

③　**説明会等**においては、質疑に対する会社側の回答が十分満足できることに加え、仕向地別利益の開示が十分に記載されていることが高く評価された。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも評価された。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢、説明会のリプレイが評価された。

⑤　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、中・長期経営計画（例えば、営業利益率、ROE 等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が説明されていることが評価された。

⑥　**自主的情報開示**においては､評価対象企業全体として得点率が低水準となった､「工場見学､説明会等の実施」に関して、現地見学会を開催し、その内容が充実していることが評価され、得点率で＋45 ポイント、評価点で＋3.6 点改善した。また、E-mail を利用して公開情報の提供を適切に行っていることも評価された。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

第３位　日産自動車（総合評価点 77.5 点〔昨年度比－3.3 点〕、昨年度第２位）

①　同社は、**コーポレート･ガバナンス関連**（74%）、**自主的情報開示**（83%）が第１位、**経営陣の IR 姿勢等**が第３位（78%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第３位（98%）、**説明会等**が第 15 位（68%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、CEO、CFO を含む経営陣の IR への参加、IR の重要性の認識、IR 部門への十分な人員配置、権限委譲等も含め、経営陣の IR 姿勢が最も高く評価された。一方、「IR 部門の機能」についての評価は第 11 位であった。なお、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第２位、「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第３位となった。

③　**フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢を始め、ホーム・ページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供、説明会のリプレイなど、この分野全体について高い評価となった。

④　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「資本政策の

説明」に関し、十分説明されていることが評価された。また、配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に十分説明されていることも評価された。

⑤　**自主的情報開示**においては、ホーム・ページ、TDnet 等で有用な情報がタイムリーかつ積極的に開示されていることや、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「工場見学、説明会等の実施」に関して、工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していることが最も高い評価となった。また、E-mail を利用して公開情報の提供を適切に行っていることも評価された。

⑥　なお、開示項目の一貫性を要望する声や、月次台数についてのテレフォン・カンファレンスを評価する声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○　豊田合成（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 74.1 点〔昨年度比＋6.9 点〕、第 6 位〔昨年度第 14 位〕）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（78%）、**自主的情報開示**が第 4 位（74%）、**説明会等**が第 9 位（73%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が第 10 位（63%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 10 位（86%）となった。昨年度に比べ全ての分野の得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇（ともに第 2 位）につながった。同社については昨年度の改善を合わせると、一昨年度より本年度までで総合評価点が 21.6 点、順位で 12 ランクアップと大幅な改善となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップの IR への参加、IR の重要性の認識、IR 部門への十分な人員配置、権限委譲、情報集積への支援等も含め、経営陣の IR 姿勢が評価された。また、IR 部門において、十分かつ正確な情報の集積、アクセスの容易性、IR 部門以外へのアレンジ機能、アナリストが要望する情報の提供、担当者との有益なディスカッション、IR 改善の努力が十分見られることも評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」が第 1 位、「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第 7 位となった。

③　**自主的情報開示**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「工場見学、説明会等の実施」に関して、得点率で＋10 ポイント改善した。また、経営陣とのミーティングを企画するなど、IR 改善の努力が継続しているとの声があった。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以　上

2018年度 ディスクロージャー評価比較総括表 （自動車・同部品・タイヤ）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目5（配点 25点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点 28点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目5（配点 10点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目4（配点 18点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点 19点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7270 SUBARU	79.0	18.8	5	23.5	1	9.8	3	13.1	2	13.8	5	1
2	7211 三菱自動車工業	78.5	19.0	4	22.0	2	9.6	7	13.0	4	14.9	2	12
3	7201 日産自動車	77.5	19.4	3	19.1	15	9.8	3	13.4	1	15.8	1	2
4	7272 ヤマハ発動機	76.0	18.8	5	21.6	3	10.0	1	13.1	2	12.5	12	3
5	6902 デンソー	75.7	19.7	1	21.2	4	8.5	13	12.6	5	13.7	6	7
6	7282 豊田合成	74.1	19.6	2	20.4	9	8.6	10	11.4	10	14.1	4	14
7	7261 マツダ	73.7	17.5	10	20.6	7	9.6	7	12.5	6	13.5	7	4
8	7203 トヨタ自動車	72.6	18.0	8	20.1	11	9.8	3	10.1	15	14.6	3	5
9	7269 スズキ	70.7	17.0	12	20.3	10	9.9	2	10.8	13	12.7	10	6
10	7267 本田技研工業	70.2	17.1	11	20.6	7	9.8	3	10.0	16	12.7	10	8
11	5108 ブリヂストン	69.8	17.7	9	18.9	17	8.5	13	11.8	7	12.9	9	8
12	6201 豊田自動織機	69.7	18.7	7	19.7	13	8.6	10	9.6	17	13.1	8	10
13	5110 住友ゴム工業	68.6	16.6	15	20.9	5	9.6	7	10.9	12	10.6	14	11
14	7259 アイシン精機	66.4	17.0	12	20.9	5	7.4	16	11.0	11	10.1	15	15
15	7202 いすゞ自動車	65.8	16.2	16	20.1	11	8.5	13	11.8	7	9.2	18	13
16	7205 日野自動車	62.8	14.8	19	19.0	16	8.6	10	9.0	18	11.4	13	18
17	5101 横浜ゴム	62.7	16.2	16	19.4	14	5.7	19	11.8	7	9.6	16	17
18	3116 トヨタ紡織	61.3	16.8	14	18.1	18	6.5	17	10.3	14	9.6	16	16
19	7240 NOK	54.1	15.2	18	15.8	19	6.1	18	7.8	19	9.2	18	19
	評価対象企業評価平均点	69.96	17.58		20.11		8.69		11.26		12.32		

（注） 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.6点（昨年度6.8点）であった。

2018年度 評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点（25点）
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。（**経営トップの参加**、IR**の重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積への支援等**）	10
(2) IR部門の機能	
① IR部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR部門以外へのアレンジ機能は十分ですか。	4
② アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR改善の努力は十分ですか。	4
(3) IRの基本スタンス	
① フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていますか。	4
② 非財務情報（**統合報告書、ファクトブック、ESG情報等**）の開示に積極的に取り組んでいますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点（28点）
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	8
(2) 説明資料等(**短信およびその付属資料を含む**)における開示	
① 連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
② 連結の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
③ 連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
④ 為替および原材料の影響について、分析に有用な形で分かりやすく、記載もしくは説明されていますか。	2
(3) 四半期情報開示	
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。［開催あり：1点　開催なし：0点］	1
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー	配点（10点）
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	2
② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか。	2
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていますか。	1
(3) 外国人投資家向け情報提供	
・ ホーム・ページや説明会資料等の英語対応がなされていますか。	2
(4) 説明会のリプレイについて	
・ 説明会のリプレイは、説明会終了後電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 ［4回すべて視聴できる：3点　2回のみ視聴できる：2点　1回のみ視聴できる：1点　視聴できない：0点］	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点（18点）
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	2
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画（**例えば、営業利益率、ROE等**）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	8
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(**資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株**)に関し十分な説明がされていますか。	4
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点（19点）
① ホーム・ページ、TDnet等で有用な情報（注）（**月次情報・四半期情報**）がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。	8
② 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。［過去1年間を目安に評価］	8
③ E-mailを利用して公開情報の提供を適切に行っていますか。	3

（注）有用な情報については、【業態】毎に、
【自動車メーカー】：地域別小売台数、輸出台数、生産台数等（**月次情報・四半期情報**）
【同部品メーカー】：ユーザー別および製品別売上高等（**四半期情報**）
【タイヤメーカー】：地域別の本数出荷、新車・市販の内訳等（**四半期情報**）

自動車･同部品･タイヤ専門部会委員

部　会　長	北山　信次	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
部会長代理	箱守　英治	大和証券
	岩井　　徹	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
	椹本　将隆	野村證券
	坂口　大陸	みずほ証券
	高橋　耕平	UBS 証券
	吉田　有史	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券

評価実施アナリスト（30 名）

磯部　智一	MU 投資顧問	大門　明子	三菱 UFJ 信託銀行
岩井　　徹	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券	高田　　悟	ﾃｨｰ･ｱｲ･ﾀﾞｳﾞﾘｭ
江口　由紀	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	高橋　耕平	UBS 証券
大牧　実慶	立花証券	田中　健司	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
岡田　真一	三菱 UFJ 信託銀行	成瀬　伸弥	岡三証券
小掠　　剛	岡三証券	萩原　　学	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
加藤　真二	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	箱守　英治	大和証券
北山　信次	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	長谷川　義人	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
木下　壽英	SMBC 日興証券	松本　邦裕	SMBC 日興証券
椹本　将隆	野村證券	持田　浩晃	丸三証券
久保田　悟	三井住友信託銀行	森本　　章	極東証券経済研究所
小西　慶祐	QUICK	森脇　　崇	みずほ証券
坂口　大陸	みずほ証券	八木　啓行	富国生命投資顧問
坂牧　史郎	大和証券	山岡　久紘	野村證券
菅原　繁男	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	吉田　有史	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。